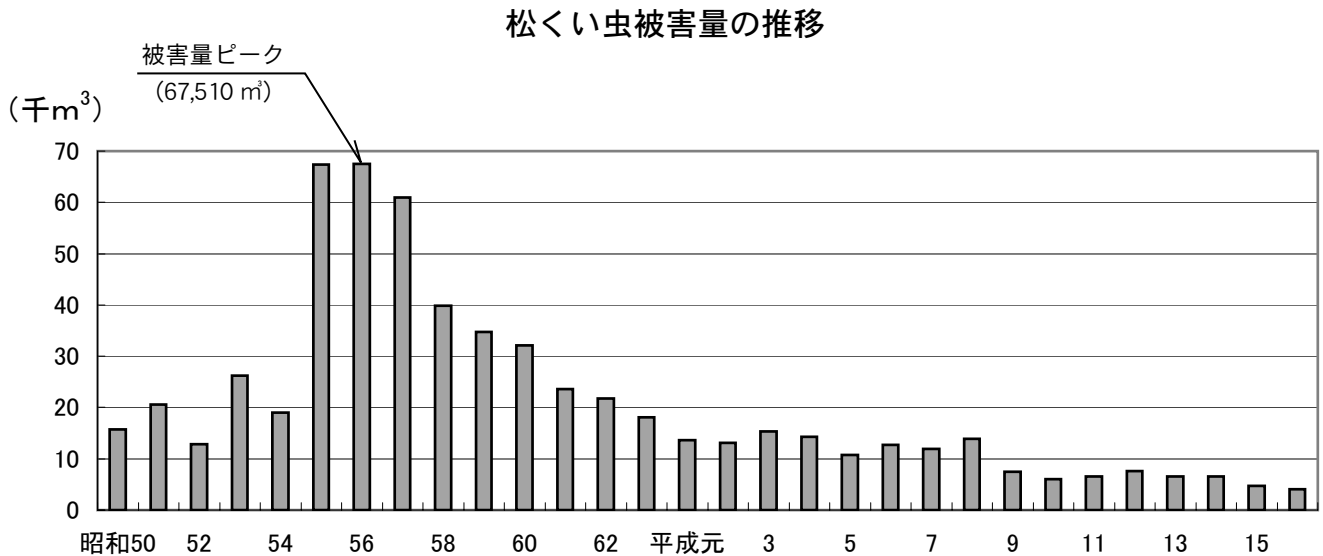


6. 森林の保護

(1) 森林病虫害の防除

— 松くい虫被害対策及びサンプスギ溝腐病対策 —



「みどり推進課資料」

松くい虫被害は、昭和22年に君津市で発生し、47年ごろまでは県南部(安房・君津)を中心に発生していたが、その後中央部(夷隅・長生・千葉)に拡大し、55年には夏の高温少雨に加え、松林が集中する北総地域にまん延したため、被害が急増し、翌56年度の被害量は67千 m^3 と過去最高になった。

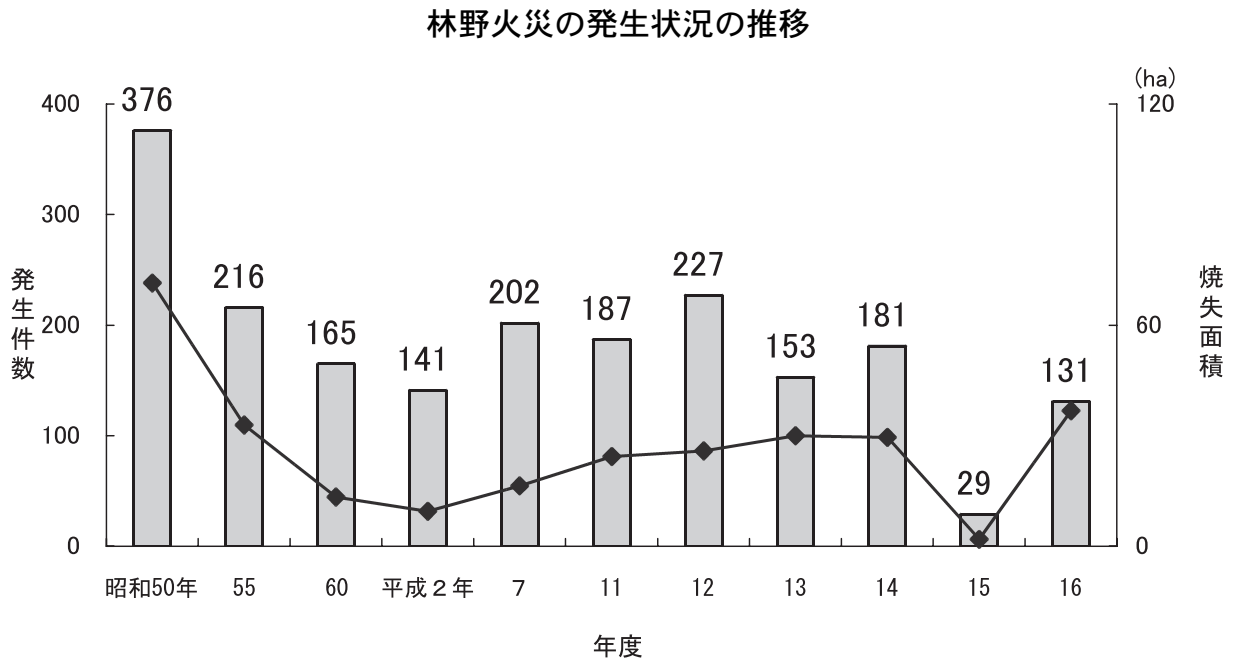
その後、各種防除対策を実施してきた結果、被害量は年々減少し、平成16年度においては4.1千 m^3 となったが、なお恒常的な被害はあり、継続して被害対策を講じていく必要がある状況となっている。

松くい虫被害対策としては、保安林等公益的機能の高い松林を中心に、生活環境や自然環境に配慮しながら、薬剤散布による予防と被害木駆除による感染源対策を実施してきている。

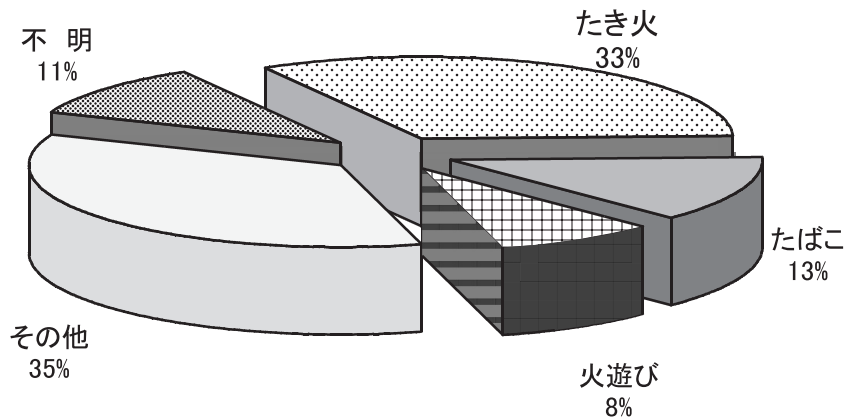
スギ非赤枯性溝腐病被害対策については、被害拡大の原因となる被害木の伐倒駆除を行ってきたが、平成16年度には、サンプスギ溝腐病総合対策事業により4.6千 m^3 の駆除を実施した。

(2) 林野火災

— 面積件数とも前年と比較し増加 —



平成16年度 林野火災の原因別内訳



平成16年の林野火災による焼失面積は36.79ha、件数は131件で、前年と比べ出火件数、焼失面積ともに増加した。

発生時期をみると、火災の発生しやすい気象条件となる1～4月に全体の約66%が集中しており、出火原因については、たき火によるものが全体の33%で、たばこの13%がこれに次いでいる。

平成16年度は、春期に千葉県山火事予防運動を実施し、県民に防火意識の啓発を図り、森林レクリエーション等による入林者への注意を促すため、林内に山火事予防掲示板、警報旗等を設置した。また、森林保全巡視員による保安林及び林野火災危険地域のパトロールを実施した。